

夏季休業前の全校集会での校長講話です。

7月21日（金）の夏季休業前の全校集会は、体育館ではなく総合実践室から各教室へのネット生中継で実施しました（1年次生のみ実践室）。これは、猛暑対策として、先生方がチームで考えてくれた方法です。校長講話は、KP法（紙芝居プレゼンテーション）を使い、「メタ認知」について約22分間、話しました。途中にペアワークを2回入れ、AL型で楽しく実施しました。質問に対する1年次生の回答が素晴らしかったです(^_^)。

◆全校集会での校長講話の要旨（約5分間分）◆ テーマ：「メタ認知について」

- 本日のお話で、皆さんに覚えてほしいキーワードはただ一つ「メタ認知」です。
- 「メタ認知」とは、「認知心理学」の言葉で、「認知を認知する」ということです。もう少し分かりやすく表現すると、「知っていることを知っている」ということです。
- 具体的にお話しします。今ここにいる自分を知るために、もう一人の自分が右斜め後ろ1m位の所にいると想像してください。そして、その自分が自分を見ているイメージです。つまり、「自分自身を客観的に見る」ということです。「視野を広げる」といってもいいでしょう。
- この「メタ認知」をする力である「メタ認知能力」が学習や問題解決の向上のためにたいへん重要であることが分かっています。では、どうすれば「メタ認知」できるようになるのでしょうか。そのためには、「モニタリング」が大切です。
- たとえば、毎日の記録を付け、自分を振り返ることがとても大切なのです。1年次～3年次の皆さんは、毎日「フォーサイト」を書いていますね。勉強以外のこともいろいろ書いて、「メタ認知」してください。
- 4年次・5年次の皆さんは「スコラ手帳」ですね。前期課程の時のように、毎日の提出はないかもしれませんが、自分のためにしっかり書いてください。
- 6年次生は、自主的な行動ですね。東京大学に合格したある先輩は、アプリを使って自分の時間を管理していました。どの教科を何分勉強したら、どのように点数が変化するかを、客観的に分析していました。
- 「数値化」とするということも「メタ認知」には大切なことです。
- 「メタ認知」することによって、自分を知ることができ、そこで「気づいた問題点」を改善することによって、学習や課題解決の向上につながります。
- 明日から夏休みです。この夏は「メタ認知」を意識して充実した毎日を過ごしてください。特に、6年次生、受験勉強、思いっきり頑張ってください。みんな、応援しています。

